

シルクロード（第二部）

マリア・フェルナンダ・ローシュミット

目次

交易品

移動した民族

著名な旅行者

シルクロードの宗教

シルクロードの言語と通貨

感染症の流行

正倉院とシルクロード

主な文献

著者について

交易品（交易された各国の産物）

インド： 奴隷、愛玩動物、毛皮、カシミヤ、綿、外国産木材、宝石など

中国： 絹、皮、鉄、鏡、武器、陶磁器、漆器、翡翠、ルバーブ、お茶、紙、火薬、医薬品など

ペルシャ :ガラス、銀器、乳香、ナツメヤシの実、ピスタチオ、桃、胡桃、緋・藍（の凝縮法）、ワイン、メリンス（織物）など

アジア各地: ラピスラズリ（瑠璃）
のような宝石及び準宝石、硬玉、サファイア、水晶、ルビー、真珠、象



ペルシャ産のガラス、ササン朝、7世紀 / 写真：マリア・フェルナンダ・ローシュミット

牙、鼈甲、サイの角。観賞用樹木、香木。銀、金、スパイス、馬。花、人間。¹

移動した民族

20世紀初頭、オーレル・スタイン卿(1862-1943)は、現在の中国の新疆ウイグル自治区にあるオアシス都市楼蘭でミイラを発見しました。ミイラは非常によく保存されていたのですが、最も注意を引いたのは、それらが保存状態のよい赤い髪と髭、大きなほっそりとした鼻と丸い目を持った、ヨーロッパ人のような外見であることです。ミイラは、格子縞の毛織物（ウールタータン）を身に着けており、その生地はオーストリアのハルシュタット塩坑で発見された衣服によく似ていました。

これらの見たところヨーロッパ人であろうミイラの素性は、今日まで謎のままです。紀元前2000年頃にカスピ海から天山山脈を通過して移住した可能性があるトハラ人かもしれません。²シルクロードの文化史の中で最も代表的な民族はソグド人です。ソグド人はイラン系で、マラカンダ(サマルカンド)から移動してきました。

アレキサンダー大王(紀元前356-323年)がマラカンダを征服した後、ソグド人は二度と以前のような軍事力を取り戻すことができず、遊牧民になりました。しかし、紀元前2世紀から10世紀にかけて、彼らはシルクロード沿いの貿易の大部分を支配し、彼らの言語であるアラム語は交易の共通言語となりました。

彼らは一か所に定住しなかったにもかかわらず、ふつうは他の民族の者と結婚することはありませんでした。ソグド人は多くの言語を習得し、話すことも読み書き同様に優れ、翻訳に長けていました。これらの資質によって、彼らはマニ教、ゾロアスター教、仏教などの宗教をアジア全域へ理想的に広めました。

¹TUCKER, Jonathan, "The Silk Road, Art and History", London, 2003, S. 16.

²TUCKER, Jonathan, "The Silk Road, Art and History", London 2003, S. 93

著名な旅行者

一部の学者は、マルコ・ポーロ(1254-1324)は中国に到達しておらず、彼の旅行記はペルシャ人、アラブ商人、または他の旅行者たちとの会話に基づいて書かれた可能性を主張していますが、彼の「マルコ・ポーロの旅（訳注：日本では一般に「東方見聞録」として知られる）」には、彼のシルクロードの旅と中国皇帝クビライ・カーン(1215-1294)の宮廷での謁見について記述があります。この本は探検家、地理学者、歴史家にとっては貴重な参考文献であり、それは依然として変わることはありません。

ここで、大都(訳注：現在の北京。モンゴル語でカンバリクとも呼ばれた。「汗の都城」の意。)の記述からの抜粋を紹介します。：「どの通りも非常にまっすぐで広いので、通りの端から端まで、また一方の門から他方の門までも見渡すことができます。」

モンゴルの駅通制度についてこう書かれています：「広大なモンゴル帝国の様々な地点へと旅行する使者たちが利用できる、ヤムと呼ばれる宿駅（宿駅、郵便馬車の駅または馬者の隊列）が40キロおきに設置されており、そこで彼らは宿泊、休憩し、馬を交換することができました。」

現在の新疆ウイグル自治区のオアシス都市ロプとロプ砂漠について：「ロプ砂漠は新疆ウイグル自治区の東部から北東部にかけて広がっています。それは可汗（偉大なクビライハーン帝国）に属し、人々はモハメッドを崇拝しています。砂漠を渡りたい旅人は、ロプの町で1週間留まり、自分と動物のために旅の支度をした後で、1か月かけて砂漠を歩きます。砂漠には動物がおらず、水は不足し、水質は劣悪です。³

シルクロードの宗教

ツァラトゥストラ（訳注：ゾロアスターのドイツ語名、ゾロアスター教の開祖）がいつどこに住んでいたのかは分かりません。彼はゾロアスター教に、イランの信仰を取り入れました。そ

³ROSSABI, Morris (Herausgeber), "The Travels of Marco Polo", New York, 2012

れは、太陽とその地上での現れである火を、唯一の神であるアフラ・マズダーの顕現として崇拜するものでした。

ゾロアスター教は古代の一神教の一つであり、イランおよびその周辺地域、中央アジア、東アジアで受け入れられました。多くのソグド人はゾロアスター教徒となり中国まで信仰をもたらしました。そこでゾロアスター教は唐代(618-907)まで続き、その後インドに伝播し現在まで残っています。⁴

仏教はインド北東部のシッダールタ・ガウタマ(釈迦/紀元前 563-483 年)によって創始され、その後、数世紀の間に中央、東、南アジアに広がりました。仏僧や巡礼者は、7世紀まで集中的にシルクロードの街道を旅しました(利用しました)。彼らは一連の彫像を建てましたが、多くの場合、オアシス都市周辺の洞窟や山壁をくり抜いた中に仏像を安置しました。8世紀以降、イスラム教が広まり、インドにおいてヒンズー教が復活すると、シルクロードから仏教は衰退していきました。

マニ教は、イランの貴族の子孫で預言者のマニ(216-274)がメソポタミアで創始しました。彼の宗教は、イラン族とセム族の伝統(訳注:イラン神話、ゾロアスター教とユダヤ教など)と仏教、そしてキリスト教を継承したものです。マニ教では宇宙を二元論的に捉え、善を相対する悪と比較考量し、知識による救済を説いています(訳注:ヘレニズム世界で流行した神秘思想、プラトンやピタゴラスの哲学をもとに「隠された真の知識」を意味するグノーシスを知ることでの救済を説くグノーシス主義の影響を受けている。)⁵

マニ教はサマルカンドからソグド商人によりシルクロードを経由して広がり、唐代の中国のウイグル人や外国人に伝わりました。

コンスタンティノープル総主教のネストリウス(†451年没)は、イエス・キリストの母マリアを当時広く用いられていた「神の母(聖母)」という呼称の妥当性を問い、そして、イエス・キリストは真の人性を持ち、それが彼の、同様に真の神性と結びつけられていると主張しました(訳注:キリストの神性と人性を区別)。アレクサンドリア総主教のキュリルはこれを否定

⁴WOOD, Frances, "The Silk Road, Two Thousand years in the Heart of Asia", University of California Press, 2002, S. 69.

⁵Ibid., S. 70.

し、イエスを「神人二つの位格に分ける」ことはできないという見解を示しました。ネストリウスは後に431年のエフェソス公会議において排斥され、**ネストリウス主義**は異端の宣告を受けました。⁶

彼らの信条は地中海地方ではもはや受け入れられなかったため、ネストリウス派のキリスト教徒は東に向かいました。彼らはキリスト教の共同体をシルクロードに沿って設立しました。

中国の西安では、781年に建立された、漢字とシリア文字が刻まれた石碑が見つかりました（訳注：大泰景教流行中国碑、1625年に発掘）。この記念碑は大泰(ローマ帝国)から光輝やく宗教（訳注：景教、ネストリウス派キリスト教）が中国に流伝したことを記念して建てられました。⁷この碑文には、モーセの第一の書（創世記）、ネストリア派の聖職者、キリスト教儀式への言及が含まれています。碑文の特異な宗教混合の表現は、ネストリウス派の教義が中国に伝来したときに受けた変容をうかがうことができます。マルタ十が道教に見られる雲文様の上に置かれ、そしてあらゆるものが仏教の蓮花の上に描かれていました（訳注：キリスト教の理解や普及のために儒教、仏教、道教の用語が用いられていた）。⁸

「イスラム」という言葉は、神の御心に従うことを意味しますが、ある民族が別の民族の権威に服従することも意味します。アラブ人が征服活動を拡大する一方で、支配された人々の多くは信仰と同時に実用的な理由でもイスラム教に取り組みました。イスラム教は（訳注：教徒の宗教的生活のみならず）世俗の生活全般を律する規範です:真のイスラム共同体はイスラム教の統治組織と法を持っており、その結果、臣民に恩恵をもたらしています。⁹

⁶ Ibid. S. 118.

⁷ TUCKER, Jonathan, "The Silk Road, Art and History", London, 2003, S. 90.

⁸ ROSSABI, Morris, (Herausgeber) "The Travels of Marco Polo", New York, 2012, S. 188

⁹ FOLTZ, Richard, "Religions of the Silk Road, Premodern Patterns of Civilization", New York, 2010, S. 85.

¹⁰ WOOD, Frances, "The Silk Road, Two Thousand Years in the Heart of Asia", University of California Press, 2002, S. 237.

歴史上、他の宗教の伝統で、イスラム教ほど経済活動を優遇するものではありませんでした。モハメッドは商人だったので、商人は社会で一番尊重されました。これは、商人の社会的地位が最も低いと考えられていた儒教の伝統とは根本的に異なっていました。儒教的階級の観念では一番上に学者、続いて農民、次に職人、そして最後に商人という位置づけでした。

シルクロードの言語と通貨

古代では、ソグド語は交易の最重要言語でした。ソグド語はタジキスタン共和国のヤグノブで今日も生き残っているイラン語（訳注：現代ソグド語）です。イスラム時代には、交易の共通言語はペルシャ語になりました。18世紀後半から19世紀にかけて、様々な方言で話される中国語とトルコ語が、最も多く使われた言語となりました。¹⁰

4世紀から7世紀までの国際貿易と文化交流に関する私たちの知識は、シルクロード沿いで見つかった硬貨に基づいています。それらの硬貨は、鑄造された造幣局から数千キロも離れたところで発見されることもよくありました。

これらの硬貨には多くの場合、肖像画や名前、日付が刻まれており、それらは今日では忘れられた支配者たちや王国を知る、計り知れないほど貴重な歴史資料です。硬貨に刻まれた銘文や図柄はまた、言語や宗教だけでなく、異なる文明の芸術的影響についての情報をもたらします。

当時、シルクロード沿いには、3つの主要通貨制度がありました。ローマ・ビザンチン帝国、ササン朝、そして中国の通貨制度です。

コンスタンティヌス1世(約306-337年)は、何世紀にもわたって使用されてきた4.5グラムのソリドゥス金貨を導入しました。また銀貨も発行されました。

ササン朝では、4グラムのドラクマ銀貨を使用しました。7グラムのディナール金貨は儀式用にのみ使われ、商取引では使用されませんでした。

中国では、もっぱら青銅と真鍮の硬貨のみを使用しました。地中海地域の刻印された硬貨とは対照的に中国の硬貨は鑄型に流し込んで製造されました。

唐時代(618-907)に、開元通宝は製造されました:四角い穴を持つ丸い硬貨は、穴に紐を通すことができました。賃金と税金は現金と穀物で支払われました。硬貨の価値が低かったので、中国人は大きな取引を行う際は金銀の延べ棒を使用しました。

中国の硬貨の価値が比較的良かったため、ササン朝ペルシャのドラクマ銀貨はシルクロード沿いの取引の「安定した」通貨でした。¹¹



ホスロー 2 世時代のドラクマ銀貨

感染症の流行

交易と宗教の伝道により活発になったシルクロード上の人の移動は、国境を開き、何世紀にもわたって相互に遠く離れていた文明を繋ぐことになりました。しかしそうした交流が、いくつかの史上最悪の疫病を流行させる原因になりました。例えば、6世紀のユスティニアヌスのペスト（訳注：このペストの大流行は当時の東ローマ皇帝ユスティニアヌスの名をとって「ユスティニアヌスのペスト」と呼ばれる）や1340年の黒死病、1495年の梅毒の流行、1500年頃の結核、1826年の第2次コレラの大流行などが挙げられます。

ユスティニアヌスのペストによって、741年から約750年の間に世界人口の半分近くが死亡し、次いで流行した黒死病ではその死者数が当時の世界人口の4分の1にあたる約1億人にのぼったとされています。

正倉院とシルクロード

美術史の観点から見て、シルクロードが何よりも興味深いのは、美術工芸品はもとより宗教的美術品の様式の変化から、他国の、それもしばしば遠く離れた国々の職人たちによる模倣が認められることです。

¹¹ ALRAM, Michael, "Monks and Merchants, Silk Road Treasures from Northwest China", New York, 2002, S. 271-276.

奈良県東大寺の正倉院宝庫には、日本の聖武天皇(701年-756年)がかつて使用した身の回りの品々など、天皇崩御の後に、光明皇后が東大寺に献納したシルクロードの宝物の数々が収蔵されています。それは、間違いなく、世界的に最も完全で保存状態の良いコレクションの一つです。その美術工芸品は主に8世紀のものです。

聖武天皇は大陸文化に対して強い興味を持っていました。733年、聖武天皇は多治比広成を大使に任命し4隻の船とともに唐の宮廷へ使節団を派遣しました(遣唐使)。そのうち日本に帰国したのは2隻だけでした。船には唐の楽士、仏僧一名、中国へ留学した日本人学生、職業不詳のペルシャ人1名が乗船しており、そのほか多くの品物を積んでいました。¹²

聖武天皇の宝物の多くは、唐代中国の国際的な首都長安で入手されました。唐ではペルシャとその製品が流行していました。正倉院宝物には中国製の家具、ペルシャ、インド、中国の楽器、地中海地域や中国の玩具、ペルシャの金属・ガラス製品、中国の絵画、中国の面、ペルシャ、インド、中国の織物、中国の陶磁器、数多くの日本の古文書などが数えられています。コレクションの美術工芸品の多くは、中国、ササン朝、中央アジアの様式を再現模造するために天平時代の技術を習得した日本の職人によって製作されています。コレクションの美術工芸品の多くは、天平時代の技術を習得した日本の職人によって模造製作されており、中国、ササン朝、中央アジアの美術様式が再現されています。



唐王朝の婦人の屏風

(訳注：宝物に替えての展示、文化財の危機管理、古代の技術についての新たな知見の獲得、伝統的な技術の継承などを目的とした正倉院宝物の模造製作事業)

主な文献

A History of Inner Asia, Svat Soucek, Cambridge University Press

Khubilai Khan, His Life and Times, Morris Rossabi, Los Angeles and London, 1988

Monks and Merchants, Silk Road Treasures from Northwest China, Annette L. Juliano and Judith A. Lerner, New York, 2001

¹² HAYASHI, Ryoichi, "The Silk Road and the Shoso-in", New York - Tokyo 1975, S. 85

Religions of the Silk Road, Premodern Patterns of Globalisation, Richard Foltz, New York, 2010

The Glory of the Silk Road, Art from Ancient China, Li Jian, Ohio and Beijing, 2003

The Silk Road and the Shoso-in, Ryoichi Hayashi, New York and Tokyo, 1975

The Silk Road, Two Thousand Years in the Heart of Asia, Frances Wood, University of California Press, 2002

The Silk Road, Art and History, Jonathan Tucker, London and Chicago 2003

Treasures from the Silk Road, Devotion, Conquest and Trade Along Ancient Highways, London, New York, Singapore, Spink, 1999

The Travels of Marco Polo, Morris Rossabi, New York, 2012

著者について

マリア・フェルナンダ・ローシュミット(ブラジル)は 2016 年より東京在住。

1998 年から 2002 年まで台北国立博物館にて講師。

2008 年ウィーン大学美術史修士号取得。

2009 年から 2016 年 サンパウロ連邦大学、USP および MASP の孔子研究所にて客員教授。

2019 年 大英博物館にて、「China, a History in Objects(大英博物館、2019)」のポルトガル語翻訳および監修を担当。